

GIGAスクール

GIGAはGlobal and Innovation Gateway for All略称です。

令和元年(2019)に文部科学省が発表した、学校教育におけるICT環境整備についての構想のことを指します。



霧島小学校では、タブレット端末を文房具として授業でフル活用しています。



小学校ではiPad、中学校ではWindowsタブレットが整備されました。

スマートフォン等のICT機器の保有率は、令和3年1月現在、9割を超えています。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用は日常のものとなっています。

学校が、子どもたちの社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げる場所となるために、霧島市でも、高速大容量の通信ネットワークや、児童生徒1人1台のタブレット端末の整備をしてきました。

そしていよいよ本年4月から、市内すべての小・中学校でタブレット授業が開始されました。※小学一〜二年生は二学期からの導入予定。

これからのソサエティ5.0時代に生きる子どもたちにとって、パソコンやスマートフォン、タブレットなどの情報端末は、鉛筆やノートと並ぶ文房具とされています。1人1台の端末がある環境は、もはや特別なことではなく、これら一連の動きは、多様な子どもたち一人ひとりの資質・能力をより確実に育むことを目的としています。

大きな過渡期にある教育現場に、霧島市議会も大きな関心を寄せています。今回の特集では、本市の子どもたちや教職員、それを支える市役所・教育委員会の取組を紹介します。

「1人1台端末」の環境

- ・教師は授業中でも1人1人の反応を把握できる
→子どもたち1人1人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に
- ・各人が同時に個別の内容を学習
・個々人の学習履歴を記録
→1人1人の教育的ニーズや、学習内容に応じた個別学習が可能
- ・1人1人の考えをお互いにリアルタイムで共有
・子ども同士で双方向の意見交換が可能に
→各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも触れられる

学びの進化

学びの転換

「1人1台端末」ではない環境

- 一斉学習**
・教師がプロジェクターなどを用いて説明し、子どもたちの興味関心や意欲を高めることができる
- 個別学習**
・全員が同時に同じ内容を学習する(1人1人の理解度に応じた学びは困難)
- 協働学習**
・意見を発表する子どもが限られる